

コープで
広がる、
つながる

体験を通じて自然を大切に する心を育む 足尾の山に木を植えよう



松木溪谷 山の斜面には植樹で育った緑



NPOの皆さんと一緒に、苗と水を持って植樹地へ



ゴロゴロと石がたくさん。よけながら苗の穴を掘ります



植樹地の比較的緩やかな斜面



床に広がる松木地区の航空写真を使ってガイドさんが説明



私の植えた苗が大きくなりますように

とちぎコープは、これまでも寄付による支援をしてきましたが、今年初めて、組合員活動として体験植樹に取り組みました。6月25日、お子さん6名を含む5家族の組合員とコープの職員、総勢19名が自らの手で木を植えました。その後、環境学習センターでビデオを視聴したり、ガイドの方に説明いただくなど、足尾の歴史と現状について学びました。参加者より「植樹をして何年もたつて大きく育った木を見て感動しました。また、参加したいです」「とても勉強になりました。語り継いで、風化させてはいけないことだと思います」などの感想が寄せられました。

江戸時代に鉱脈が発見され、明治・大正と、国内の主要な銅の生産地として日本の近代化を支えた足尾。しかし、この銅山の隆盛は、周辺に大規模な環境破壊をもたらしました。鉱毒による渡良瀬川流域一帯への被害と、足尾銅山周辺への被害です。銅の製錬過程で発生する亜硫酸ガスにより、山々は草木の生えない裸地となり、雨によって表土が流出して下流域に甚大な被害を与えました。

渡良瀬川の源流に位置する松木地区では、国や県などの関係機関による復旧工事が約100年前から続けられ、また近年は、ボランティアの植樹活動により緑化がすすみつつあります。NPO法人「足尾に緑を育てる会」は、1996年に発足し、児童・生徒や企業の体験植樹を受け入れ、植樹活動を通して環境学習の推進に力を注いでいます。